

深イ〜話!

No.48

「みやざき中央新聞より」——生まれ変わって「今」がある——

子どもの頃、その少年は「ヨシちゃん」と呼ばれていた。ヨシちゃんが生まれたのは、田舎町からさらに幾重にも連なる山の向こうの、山奥の小さな集落だ。

生まれたとき、ヨシちゃんの足は曲がっていた。頭は水頭症のように腫れて柔らかく、眼球は安定せず、乳を吸う体力もなかった。生後3ヶ月も経てば座る首も、なかなか座らなかった。田舎の病院では病名が付けられず、周囲からは「先祖のたたりでは？」とささやかれた。

ヨシちゃんの成長を妨げたのは骨のもろさだった。ちょっとした力が加わると音を立てて折れた。幼少期に骨折した回数は30回近くにも及んだ。その度に激痛が走った。両親も、祖母もそんなヨシちゃんが不憫でならなかった。

そんなヨシちゃんには、大人も驚くような才能が一つあった。歌声だ。歌のうまさは誰もが称賛した。村祭りや宴会があるとヨシちゃんはスターだった。得意な『岸壁の母』を歌って村人たちを楽しませた。

小学校に入る頃、病名がわかった。先天性骨形成不全症。2万人に一人の割合で発症する原因不明の難病だ。骨が折れやすく、なかなか身長が伸びない。

ヨシちゃんは養護学校に入学し、寄宿舎生活となった。

その後も入退院を繰り返したが、養護学校高等部の3年にもなると、随分元気になり、進学も夢ではなく、現実のものとなった。迷わず音楽大学を選んだ。

日本を代表するカウンター・テナー歌手、米良美一さんの話だ。最近やっと自分の過去を振り返れるようになったという。宮崎駿監督の『もののけ姫』の主題歌を歌って一躍有名になった、ということぐらいしか知らなかったのだから、その過去に驚いた。

『もののけ姫』で脚光を浴びた後、さらなる人生の試練があった。

自分の過去を恨み、自分の容姿を蔑み、^{さげす}「絶対見返してやる！」という思いで米良さんは頑張ってきた。だが、歌手として成功したものの、何の幸福感もなかった。それどころか、歌えない、声が出ない日々で苦悩した。

そのスランプから脱するきっかけになったのは、「ヨイトマケの唄」との出会いだった。

土木作業員をしながら自分を育てた母親を回顧する美輪明広さんの代表作だ。米良さん自身の幼少期と重なった。

身長150センチ弱の米良さんはこう言っていた。

「今度生まれ変わるとしたら、声はそのままで、身長は180センチくらいで生まれてきたい、なんて虫のいいことを考えています。でも、こんな体に生まれてきたのは、もしかしたら、僕自身が昔『神様、今度生まれ変わるときは、あえて重い障害を背負って、そして土方をやっているような両親に生まれてみたいです。そういう中で僕は親に孝行し、幸せを掴んでみせます。それが僕の魂を鍛えるのに一番いいと思いますから』と願ったんじ

やないかと思っっているんです。そしたら自分の人生、恨めませんよね。むしろ今はこの体、そしてこの自分を、心から愛しく思えるのです。」

★今年の大みそか『紅白歌合戦』で、美輪明広さんは「ヨイトマケの唄」を歌われます。

この歌は昭和 40 年にヒット。しかし「土方」というのは「日雇い人夫」の差別用語ということで放送禁止になりました。すばらしい歌ですので、ぜひ紅白観てください。

作詞・作曲 美輪明広

父ちゃんのためなら エンヤコラ
母ちゃんのためなら エンヤコラ
もひとつおまけに エンヤコラ

1. 今も聞こえる ヨイトマケの唄
今も聞こえる あの子守唄
工事現場の昼休み
たばこふかして 目を閉じりゃ
聞こえてくるよ あの唄が
働く土方の あの唄が
貧しい土方の あの唄が
2. 子供の頃に小学校で
ヨイトマケの子供 きたない子供と
いじめぬかれて はやされて
くやし涙に暮れながら
泣いて帰った道すがら
母ちゃんの働くところを見た
母ちゃんの働くところを見た
3. 姉さんかぶりで 泥にまみれて
日にやけながら 汗を流して
男に混じって ツナを引き
天に向かって 声をあげて
力の限り 唄ってた
母ちゃんの働くところを見た
母ちゃんの働くところを見た
4. なぐさめてもらおう 抱いてもらおうと
息をはずませ 帰ってはきたが
母ちゃんの姿 見たときに
泣いた涙も忘れ果て
帰って行ったよ 学校へ
勉強するよと言いながら
勉強するよと言いながら

5. あれから何年経ったことだろう
高校も出たし大学も出た
今じゃ機械の世の中で
おまけに僕はエンジニア
苦労苦労で死んでった
母ちゃん見てくれ この姿
母ちゃん見てくれ この姿

6. 何度か僕もぐれかけたけど
やくざな道は踏まずに済んだ
どんなきれいな唄よりも
どんなきれいな声よりも
僕を励ましなぐさめた
母ちゃんの唄こそ 世界一
母ちゃんの唄こそ 世界一

今も聞こえる ヨイトマケの唄
今も聞こえる あの子守唄
父ちゃんのためなら エンヤコラ
子どものためなら エンヤコラ

